

さいたま市長10月定例記者会見

平成25年10月17日(木曜日)

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の読売新聞さん、進行をよろしくお願いたします。
- 読売新聞 10月の幹事社を務めます読売新聞と申します。よろしくお願いたします。
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。10月中旬だというのに統計をとり始めて最も遅い真夏日を記録するなど、体調管理が難しい日々が続いております。
また、昨日は大型で強い勢力を持った台風26号が関東を直撃し、伊豆大島で多くの犠牲者が出るなど、大変大きな被害が出ております。
本市におきましても、既に報道発表等行っておりますが、被害が発生しております。被害を受けた市民の方には心よりお見舞いを申し上げますとともに、今回の台風で得られた課題をフィードバックして、より一層の防災行政の充実に努めてまいりたいと考えております。
それでは、本日の議題の説明に入らせていただきます。
それでは、まず「議題1「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」を開催します」についてご説明いたします。

市長発表：

議題1「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」を開催します

いよいよ間近に迫りました「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」の概要についてご説明をさせていただきます。

世界最高峰の自転車競技レースであります「ツールドフランス」の名を冠した世界初の大会がスポーツのまち、さいたま市で行われます。

自転車競技レースのほか、周辺サイドイベントやパブリックビューイン

グなど詳細が固まりましたので、それぞれのカテゴリーごとにご紹介をしたいと思います。

まず初めに、事業の全体概要を再度確認をさせていただきます。

時期は、来週の土曜日、26日、場所はさいたま新都心周辺でございます。まちをほぼ全面的に活用する、これまでに例のない規模のイベントとなります。

海岸線や山岳コースなどをひた走るツールドフランスの本大会とは違って、まちなかで交通を遮断して短距離を何回も周回するクリテリウムという形のレースでございます。

目の前をトップスピードで時速70キロを超えると言われる高速で通過する世界のトップライダーを沿道で何度も応援することができるのが最大の魅力となっております。

また、このレースのほか、8-1A街区のクリテリウムパーク、けやきひろばのさいたまるしえ、コミュニティアリーナのサイクルフェスタなど、各イベント会場であらゆる世代が一日中楽しめる、盛りだくさんの企画をご用意しております。

それでは出場選手からご紹介をさせていただきたいと思います。まず、海外から、さきのツールドフランス本大会に日本人選手として唯一出場を果たしましたチーム・ヨーロッパカーの新城幸也選手を含む8チーム32人に、国内選手24人を加えた56人の精鋭が参加をします。

まず、(画面を指さし)この選手はクリストファー・フルーム選手であります。ロンドンオリンピックメダリストであり、さきの記念すべき100回のツールドフランス本大会で総合優勝を果たした選手であります。チーム・スカイ所属でございます。

また、今年の本大会で4度の区間優勝をなし遂げましたアルゴス・シマノのマルセル・キッテル選手、それから昨年及び今年の本大会でポイント賞のマイヨ・ベールを獲得をしましたキャノンデールのピーテル・サガン選手、そしてこの選手は、今年9月に行われました世界選手権で優勝しまして、世界チャンピオンの称号でもあります5色の虹色のジャージ、「アルカンシェル」を獲得したモビスターというチームに所属をしております。イ・コスタ選手も出場されることになっております。

このほかにも、同じくキャノンデールの増田選手、それからオリカ・グリーンエッジの別府選手も、新城選手とともに海外からの招聘選手ということで出場いただきます。

また、今季限りの引退を表明いたしました福島晋一選手のラストレースということになります。長年日本の自転車ロードレース界を牽引されました福島選手に出場いただくことになりまして、大変光栄であると考えております。

それでは、海外招聘選手の動きについてご説明をさせていただきたいと思っております。

海外招聘選手につきましては、前日の10月の25日に来日されまして、同日市内に到着され、市内のホテルを出発して、地域交流、学校訪問及び市内観光を予定しております。

選手の皆さんにとっては非常にタイトなスケジュールとなりますが、せっかくの機会でもございますので、ぜひ日本の、またさいたま市の伝統・文化にも触れていただきたいと思いますと考えておりまして、各選手が帰国後、さいたま市での体験をそれぞれ話していただければ、本市のPRにもつながっていくと考えております。

そして、その後17時40分から記者会見を行わせていただきます。記者の質問に選手が答える形式で会見を予定しておりまして、戦いを前にした選手の生の声を聞いていただきたいと思いますと考えております。

なお、18時から予定をされております前夜祭につきましては、知事にもご登壇いただきまして、「じてんしゃ王国 埼玉」を大いにアピールをしていただく予定でございます。

また、この前夜祭は大会を物心両面で支えていただいておりますスポンサーや大会関係者との交流の場として考えております。

続きまして、当日のスケジュールについてご説明をさせていただきます。

10時50分から、スタート・ゴール地点でのコース上におきましてオープニングセレモニーを行います。

引き続きまして、一般募集により応募されました市民30組、約100人による体験走行を実施いたします。

なお、埼玉県自転車競技連盟、埼玉県サイクリング協会、埼玉県競輪選

手会、埼玉県自転車・軽自動車商協同組合の皆さんに受付から車検、伴走まで協力をいただくことになっております。

12時10分から選手が登場されまして、まず国内の選抜選手を紹介いたします。代表選手3人ほどにインタビューを実施する予定となっております。

国内選手スタート後、海外選手をチームごとに紹介をします。代表選手にインタビューを予定しておりまして、招待者の皆様とともにオープニング走行を行っていただくことになっております。

レースは、13時からと13時45分から、それぞれ出場選手を半分ずつに分けまして、半分ずつの選手が8周で争うポイントレースというものを行わせていただきます。

また、15時から全選手が出場するクリテリウムのメインレースということになります。20周で最終着順を争う大変エキサイティングなレースとなるのではないかと思います。

16時30分から表彰式を行う予定としておりまして、クリテリウムメインレースを制した個人、チームを初め、各ポイントレースの勝者などを表彰いたします。

エスコートは、ツールドフランスを5度制しました選手であり、伝説の選手とも言われておりますベルナル・イノー選手が登場いただくことになっております。

次に、クリテリウムパークについてでございます。ここでは大会本部などが設営されることになっております。

8-1A街区に設置をされますこのクリテリウムパークですが、選手村、それからVIP等関係者限定エリアとさせていただきます。

選手インタビュースペースや放送中継エリア、ドーピング検査エリア、救護所ということになります。

また、大会運営本部、消防・警察の待機場所などもこちらに設置する予定となっております。多くの来場者が訪れる会場全体のコントロールエリアということで機能させていきたいと思っております。

また、さいたま市花いっぱい運動推進会のご協力のもと、クリテリウムパークをハンギングバスケットで装飾をして、(画面を指さし)こんな感

じですね。はい。花と緑で世界中からお越しの方をおもてなししたいと考えております。

続きまして、けやきひろばで行われます、この「さいたまるしえ」でございます。けやきひろばでは、食のイベント「さいたまるしえ」を開催いたします。各スポンサーのPRブースのほか、飲食ブースなど約40の企業・団体が出店いたします。

おなじみの「盆栽だー」、「岩槻ねぎの塩やきそば」など地元さいたまのおすすめグルメはもちろん、フランス製品の飲食物販コーナーも登場するなど、レースばかりでなく、味の日仏競演も楽しみの一つとなっております。

パリ市場では、ヨーロッパテントを使用するなど、シャンゼリゼのまちなみを意識したしつらえにしていきたいと考えております。総合インフォメーションもこちらに設置をさせていただきます。

クリテリウムパークやサイクルフェスタなどへの案内などを含めて、会場全体の来街者への案内を行っていく場所ということになります。

続きまして、コミュニティアリーナで行いますサイクルフェスタでございます。このさいたまスーパーアリーナ内のコミュニティアリーナでは、自転車関連企業のブース、そして警察等とタイアップした子ども自転車安全運転教室、レースの模様を生中継します大型スクリーン、オフィシャルグッズ販売などを実施する予定となっております。

埼玉県による「さいたまクリテリウム」PR協力事業「自転車でぐるっと埼玉」キャラバン隊活動の紹介もこちらのサイクルフェスタのほうで行います。

（この活動では）若手お笑い芸人がるまんさんがポタガール埼玉の皆さんと県内全自治体を自転車で訪問しながらこの大会をPRしていただきました。各自治体訪問で寄せられました応援メッセージ、あるいは活動の模様などを紹介させていただく予定でございます。

ちなみにさいたま市へは、大会前日の25日に来庁される予定となっております。猛暑の8月からスタートして、もう2カ月、3カ月近く回っていただきました。ようやくこのゴールにたどり着いたということになりますので、その労をねぎらいたいと思っております。

また、さらには著名人によるステージイベントなども行われる予定となっております。

それから次に、パブリックビューイングについてでございます。大会当日、会場にお越しになれない方、また沿道の混雑によってレース観戦が難しい方などのために、レースの模様を生中継するパブリックビューイング会場を数多く用意させていただきました。

1つが、先ほども言いましたけれども、サイクルフェスタ会場のコミュニティアリーナに大型スクリーンを設置してございます。

それから、大宮ソニックシティイベント広場ということで、当日鐘塚公園で大宮区民ふれあいフェアが行われておりますが、ソニックシティの半地下になった、その場所でこのパブリックビューイングが行われることとなります。

また、新都心の東側でありますコクーンの新都心・カタクラパークにおきましても、こういったパブリックビューイングが行われる予定になっております。

また、岩槻駅前のクレセントモール、また浦和駅東口駅前市民広場のKIZUNA Festivalをやっている会場でもそれぞれ実施されます。

さらには、以前もお話もしましたが、関西国際空港でスカイビューサイクルカーニバルというものが開催をされておまして、ここでパブリックビューイング並びに「さいたまうまいもん販売フェア」も実施をされる予定となっております。県内の物産についてもPRのご協力をいただいております。

いずれの会場もレースの中継だけではなく、さまざまな企画を取りそろえておまして、それぞれの会場が魅力的なイベントとなっておりますので、それぞれにご注目をいただきたいと思いますと思っております。

続きまして、テレビ放送の予定についてでございます。

レースの模様につきましては、J SPORTS 3、あるいはJ:COMテレビでも放送される予定となっております。

会場で、パブリックビューイングで、また自宅で、それぞれの都合に合わせて思い思いのスタイルで大会を楽しんでいただきたいと思いますと思っております。

す。

これらの番組のほかに、レースの様子は各国のネットワークを通じまして、世界約130カ国で放送される予定となっております。“スポーツのまち さいたま”を国内外に向けて発信されるものと思っております。

また、大口の企業協賛だけでなく、「少額ながらも協力をしたい」という声を受けまして、さいたまクリテリウムオフィシャルサポーターズというものを募集しております。小口の法人あるいは個人の皆さんがスポンサーになれるという制度ございまして、あわせてオリジナルグッズも提供させていただきます。

これを機会に、サポーターズに応募して、関連グッズを手に入れていただきまして、多くの皆さんにグッズをつけていただき、当日会場にお越しをいただければ、黄色に染めていただければと考えております。

なお、このオフィシャルグッズの販売、またサポーターズの募集については11月末まで受け付けをさせていただきたいと思っておりますので、報道の各社の皆様にはこちらのほうのPRもあわせてお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして、「さいたまクリテリウム芸能人応援団」についてでございます。今月の11日、大会をより盛り上げていただくために、私自身が呼びかけさせていただいて、「さいたまクリテリウム芸能人応援団」が結成されました。

名誉団長には、世界選手権個人スプリント10連覇のミスター競輪こと中野浩一さんに就任をいただきました。また、団長には、この大会に出場選手を輩出しておりますけれども、「チーム右京」の監督を務め、元F1レーサーであります片山右京さん、また映画、ドラマ、バラエティ、CMなど多方面で活躍をされております石田純一さん、首都圏の朝の顔でもあります大野勢太郎さん、また地元さいたま市出身のアナウンサーであります堀尾正明さん、またあらゆるジャンルのスポーツに造詣の深いスポーツジャーナリストの二宮清純さん、また「さいたまるしえ応援団長」も務めていただき、また今回イメージソングもつくっていただきましたシンガーソングライターの中村あゆみさん、いずれも各界を代表する著名人ですが、それぞれの持っているさまざまなメディアの中でPRをしていた

だけのものと思っております。大会をさらに盛り上げていただければと考えております。

昨年、夢のような途方もない計画と思われましたこの「ツールドフランス」であります、今まさに開催のときを迎えようとしております。この世紀のレースを通じて、本市を国内外に広く発信できる絶好の機会であると捉えています。

また、多くの来街者による経済効果や、また自転車関連産業の活性化、さらには改めて自転車がクローズアップされる今回を契機に、自転車を活用したまちづくりというのもしっかりと取り組み、また推進をしていきたいと考えております。

将来、この大会を見た子供たちが夢を描いて、いつの日かマイヨジョーヌを身にまとった日本人選手がシャンゼリゼからフランスの空を見上げる日が来ることを願っております。

レース以外にもさまざまな関連イベントなどを通じまして、家族のきずなを深める、そんなきっかけとなればとも考えております。

そして、単なる一過性のイベントとして終わらせることなく、市民の皆様の誇りとして心に残る大会にしていきたいと考えております。

当日は、安全確保を第一に、緊張感を持って、警察や消防、市民ボランティアの皆様方と連携をしながら、事故等のないよう万全の体制で臨んでいきたいと考えております。

この史上初の試みに対して、市民の皆さん、あるいは報道関係を含めまして、さまざまな皆様のさらなるご協力とご理解をお願いしたいと思っております。

続きまして、議題2に移らせていただきます。

市長発表：

議題2 「姉妹都市提携15周年記念事業アメリカ合衆国ピッツバーグ市訪問」

議題の2は、姉妹都市提携15周年記念事業として、アメリカ合衆国ピッツバーグ市への訪問についてご説明をさせていただきます。

まず、訪問の概要から説明をさせていただきます。

日程は、10月の28日(日曜日)から11月1日(金曜日)までの5日間ということでございます。

訪問先は、さいたま市の海外姉妹都市でございますアメリカ合衆国の北東部に位置するペンシルバニア州ピッツバーグ市を訪問いたします。

ピッツバーグ市は、人口約31万人、ハイテク、教育、金融、サービス業を中心とした都市でございます。

訪問する者は、私のほかに随員が3名、合計で4名、それに別行程となりますけれども、市議会議員の訪問団が8名ということで、合計で12名がこのピッツバーグ市を訪問し、公式行事などに参加させていただく予定となっております。

訪問の目的であります、本年でこの姉妹都市提携、ちょうど15周年を迎えますけれども、それを記念してピッツバーグ市を訪問して、ピッツバーグで実施されております植樹事業、さくら・プロジェクトへの参加協力による交流などを提案してまいりたいと思っております。

表敬訪問などの公式行事のほかに、現地の日本人や姉妹都市協会による記念事業などに参加することでピッツバーグ市との交流を深め、友好親善を図っていききたいと考えております。

また、さいたま市におけるスポーツのまちづくりや、あるいは環境施策、またクリテリウム、世界盆栽大会の開催、本市の伝統産業を初めとするさいたま市の魅力、あるいはさいたま市のさまざまな活動などをピッツバーグ市の皆さんにお知らせをし、PRをしていききたいと考えております。

次に、さいたま市とピッツバーグ市との交流のこれまでの経緯と歴史でございますけれども、ピッツバーグ市との交流は、1981年(昭和56年)に旧大宮市がペンシルベニア州より46名の教職員を受け入れたことから始まったものでございます。

その後、教職員同士の相互に訪問いたします「国際教育文化交流」が進展し、両市の友好関係が深まって、1998年(平成10年)に姉妹都市提携を行ったものでございます。

これまでの主な交流実績としましては、市民レベルでの交流としては、市民訪問団や文化使節団の相互訪問をさいたま市誕生以降5回実施いたしており、延べ65人の市民交流が実現しております。

また、教育・スポーツの分野の交流として、サッカーでのスポーツ少年団、また高校生海外派遣事業の実施によりまして、相互訪問を実施してきたところであります。

姉妹都市提携の記念事業としては、5年ごとに両市において訪問事業を行っております。

本年は、姉妹都市提携15周年を迎えて、記念の訪問事業ということになっております。

主な日程でございますけれども、10月28日にピッツバーグに向かって出発しまして、その日に到着します。29日の午前中にはピッツバーグ市とピッツバーグ市議会を表敬訪問いたします。

その後、ピッツバーグ市を含むアレゲニー郡の郡知事と面談をさせていただく予定であります。

そして、29日の午後にはピッツバーグ大学を訪問し、ピッツバーグ大学では、大学教授からピッツバーグ市の経済再生についての説明を受ける予定となっております。

その後、旧大宮市と市民が協力して大学内に設立をされました日本文化ルームで、日本文化を学んでいる方々との交流を予定しております。

翌30日には、現地日本人が主となって実施をしておりますさくら・プロジェクトの植樹式に参加いたします。

また、ジェトロの外国企業誘致地域支援事業によりまして、日本法人としてさいたま市の中央区に事業所を設置しておりますプリザベーション・テクノロジー社を訪問させていただく予定でございます。

プリザベーション・テクノロジー社は、ピッツバーグ市に本拠地を置き、主に書籍あるいは文書など紙資料の保存技術提供を行っている企業でございます。

そして、翌31日にピッツバーグを出発し、翌11月1日に帰国の予定となっております。

今回の訪問を通じまして、同じ姉妹都市としてピッツバーグ市のさらなる友好関係、友好親善関係の強化を図り、また市民レベルでの交流などもさらに深めていきたいと考えております。

私からの説明は以上です。

- 読売新聞 それでは、市長からの説明についてご質問のある方がいらしたら、お願いいたします。

議題に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。お願いします。
クリテリウムについてなんですけれども、先日上田知事がですね、開催はお手柄だったけれども、十分浸透していないのは残念だということを発言されていまして。それについての受けとめをお伺いしたいのが1点とですね、市長も先ほど話しされていまして協賛金、大口の企業の協賛金ほどのくらい集まったのか、またサポーターズのはどのくらい集まったのかというのをお聞かせください。
- 市 長 まず、PRについてですけれども、今回、今年の3月の後半に調印をして、それからがスタートということで、7カ月間という極めて短期間ということもございましたので、必ずしも十分PRができたとはもちろん思っておりませんが、ただ今後、これからもまたいろいろテレビでご案内をしていただいたり、あるいはいろいろなメディアで扱っていただける機会もさらに増えてくるだろうと思っておりますので、このPRあるいは宣伝等も含めてそういった反省も踏まえながら、また今後に生かしていきたいなと思っております。
それから、協賛金の集まり状況であります。目標まであと一歩というところまで来ているという状況でありまして、オフィシャルサポーターについては、まだこれも日々数字が変わっておりますので、ちょっと何とも正確な数字ではありませんけれども、既に法人では200団体を超えるところから協力をいただいていると、また個人も500名近い方々にご協力をいただいていると報告を受けております。
ただ、目標まで、まだもう少しというところでありまして、引き続きご協力をお願いしていきたいと思っております。
- 埼玉新聞 前回8割を超えたとおっしゃっていましたが、9割にはまだ達成していない。
- 市 長 約9割ぐらいと、要するにスポンサーということだけで言いますとね。
- 埼玉新聞 協賛、大口の協賛金だけで9割。

- 市 長 はい。
- 埼玉新聞 プラス、それとは別に個人、オフィシャルサポーターズ。
- 市 長 はい。
- 埼玉新聞 オフィシャルサポーターズですね、大体2, 500万程度集まったというふうには伺ったんですけども、そうすると合わせると1億5, 000万突破しているようにも思うんですけど、いかがでしょう。
- 市 長 どういうふうにそれを考えるかというのはあると思いますけど、いずれにしても私たちとして民間の皆さんからできるだけご協力をいただいて、ということで、当初大口のスポンサーをかなり期待していた部分もあったんですけども、かなり限られたものである、ということで、いろいろな方法を通じて今取り組んでいるというところで、それぞれの具体的な数字はちょっとまだ私自身も正確には把握をしておりませんが、あと一歩のところまで目標にかなり近づいてくることがようやくできたというところだろうとは思っています。これは、本当に地元の企業含めて多くの皆さん、あるいは市民の皆さん、事業者の皆さんに感謝をしたいと思います。
- 日本経済新聞 今のちょっと質問についてなんですけど、スポンサーについてなんですけど、従来からやや遅れているというような表現もあったかと思う。その遅れていた理由は一番はどこにあると思われているのかということと、あと足りなかった場合ですね、最終的にどのように帳尻合わせるといふか、されるおつもりなのかをまず教えていただけますか。
- 市 長 遅れていた理由についてはですね、今回初めての取り組みということもあって、スポンサー企業について、ツールドフランス本体があるスポンサーとの関係であるとか、あるいはタイミング的には7カ月という極めて短いタイミングであったというようなこともありまして、その辺が一つの理由かなとは思っております。
- 日本経済新聞 足りなかった場合、最終的にはどのように。
- 市 長 ちょっとそれは、今後検討していきたいと思っております。
- 日本経済新聞 あと、PRが十分じゃなかった点も、どのような理由からそういうふうな、短いということはもちろんとそういうこと……
- 市 長 PRについては、何をもって100点とするかというのはあると思うんですけど、よりたくさんの人に知っていただきたいという思いはあります

ので、さいたま市民はもとより、全国的にこのツールドフランスという大会自体がまさに世界的に言えば三大スポーツ大会の一つと言われるぐらいの大会ですから、そういう部分と比べると、やはりちょっとPR効果としては薄かったというか、もっとやっていきたいという思いはありましたけど、やはり逆に言うと日本にとってはまだ自転車レースというのが必ずしもなじみのあるものではない部分もありますので、そういった部分も踏まえながら、PR活動をこれまでもやってきたわけですけども、一つは時間的な問題があったと思いますし、あとは予算的に限られた部分もあったと思いますし、その中で取り組んできたという中で、私たちとしてもどちらかという今回パブリシティを中心としたPRということが中心になってきましたので、今後、今回の大会を踏まえて、また改善すべき点は改善をしていかななくてはいけないなどは思っております。

おかげさまで、随分多くの皆さんには知っていただき始めていると思っておりますけども、ただやはりもともと大きな大会ですから、やっぱりもっとたくさんの人という思いは思っています。

○日本経済新聞　あと、当日ですね、全体で30万という数字があったかと思うんで、ほかにそのそれぞれの例えばもっとカウントしやすいようなですね、さいたましえに会場したのが何人とかいう目標等あるんですか。

あと、大会の成否というかですね、基準となるのはどういうところにある。一つじゃないのかもしれませんが、こういうところをクリアしたら成功だとか考えているというような基準、ポイントみたいなものがあれば教えていただけますか。

○市　長　そうですね。来街者ということでは、このメイン会場プラス、ここだけではもしかするとなかなかさばき切れない可能性もあるので、私はパブリックビューイングという形で広く、より多くの皆さんに見ていただくということで、やるように取り組んできましたので、もちろんそういったところの方々も含めて、私たちとしてはカウントしていくことは必要かなとは思っております。あと、関西空港でもやらせていただきますので。

それから、成功の基準ですか。

○日本経済新聞　成否、こういう、例えば来場者数で何人達成したら盛り上がったと考えているとかですね、何かそういう成否というようなポイントみたいなもの、

基準みたいなものは。

- 市長 そうですね。最終的にはそういった来街者の数というのも一つの基準でしょう。また、PRの話が出ていましたけれども、広告効果というようなことも一つは基準になってくるんじゃないかとは思っております。それらを、あと当日ができるだけ安全に行われるということも基準の一つになっていくのかなと思っておりますけども、いずれにしても総合的にそれらを判断していくということの中で生まれてくるのではないかなと思います。

ただいずれにしても、1回ごとによかった、悪かったかという判断することは大切でありますけども、今後私たちとしては継続的にやっていくことで、さらにその効果を高めていきたいという思いもあるので、その中でいろいろな視点からまた判断をしていくことが必要かなとは思っています。

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

PRに関連してなんですが、世界に発信していくという意味では、ホームページとかフェイスブック等でいろいろやられているのを知っているんですが、一方でそういったものだと、自転車に興味ある方以外余り見ないんじゃないかというのがあると思うんです。その中で、あと開催するまちを盛り上げるという意味では、クリテリウム以外の目的でさいたまを訪れた人とか、さいたまに住んでいる人が何気なく通る中で目にするものとしてPRするというのが、非常にほかの大会のPRのときもそうですけど、有効かなと私自身思っています。そういう観点で見ると、最近ポスター等やっと増えてきましたが、まだまだ少ないと思いますし、当日のさいたま新都心駅の飾りつけなんかも、当日ようやくするというお話も聞いていまして、それではちょっとそういう意味でまちの盛り上げと、普通に暮らしている人たち、通過する人たちに知らせるという意味では不十分んじゃないかなと思うんですが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

- 市長 今回も限られた予算の中でやっておりますので、十分できなかった部分たくさんあると思うんですけど、例えばもっと商店街にバナーみたいな形で掲示をしたりとか、あるいはそういったいろいろな場所で見える取り組みというのは、今後さいたま市内だけじゃなくて、もう少し広域にとかという思いもありますし、今週末には東京でも私たちPRイベントやります

から、そういったことなども含めて、これPRってやり出したらいろいろな手法たくさんございますので、どこまでどのぐらい予算をかけて効率的にやるかということになると思うんです。

ただ、やっぱりより多くの方々に知っていただくための努力は、まだまだ必要だと思っておりますので、現状の中でも残り10日ぐらいありますので、その中でできる限りの取り組みはしていきたいと思っておりますけれども。

○ 埼玉新聞 予算ということもあったというお話がありましたが、当初の予定していた予算がとれなくてPRが十分できなかったのか、それとも当初の予算から限られていた結果が今のPRの状況なのか、どちらなのでしょう。

○ 市長 そうですね、当初の予算どおり今やっているわけですが、基本的には、もっと盛り上げるためにはもっといろんな手法をとる必要もあるなどは思っております。

○ 埼玉新聞 あとですね、先日市長は、今後継続して開催をしていきたいということおっしゃっていたと思うんですが、来年以降の開催について、現時点でASOとはどのような話し合いを行っているのでしょうか。それで、来年やるということになるとすれば、どのようなタイミングでどういう手順を踏んで決まっていく見込みなのでしょう、現時点でわかっていること教えていただきたいんですが。

○ 市長 これまでもASOとは、1回ではなく継続的にやっていきたいという話は、口頭レベルではいろいろしていますけれども、正式な形で協議はまだしていないというところでもあります。いずれにしても、継続するか否かについては早目にASO側と協議をして結論を出していきたいとは思っています。

○ 埼玉新聞 継続するに当たって、こういうことをクリアしてもらわないとできないとか、そういうような話というのは出ていますか。

○ 市長 今後具体的な話になってくる中で、ASO側の意見もあるでしょうし、私たちの考え方もあるでしょうし、その辺をお互いに調整をしながらということになるでしょう。

○ 埼玉新聞 市としては継続ということで、これから話をしていきたいということ。

○ 市長 継続したいという思いはあります。ただ、それは今後ということになり

ます。

○ 埼玉新聞 ありがとうございます。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

今のですね、準備の進捗状況を簡単に教えていただきたいと思いますが、例えば前夜祭とかがまだ決まっていなと思うんですけど、決まって進んでいる部分と、まだ決まってなくてこれからやる部分みたいな簡単に教えていただけたらと。

○ 事務局 制作担当です。

ほぼ大会まで1週間ということになりまして、前夜祭も含めて詳細決まっております、あとは私どもでは決まっておりますが、お客様等の多少調整の時間が必要だったり、ゲストの方を含めて調整作業一部残っておりますけれども、スケジュール、内容に関してはほぼ決まっております。

○ 朝日新聞 警備体制は、例えばどういう感じになっているのでしょうか。

○ 事務局 今回安全性が何よりも大事ですので、二重、三重の警備体制をつくりまして、県所轄警察の方のご協力、それから制服警備、それから我々運営スタッフによる誘導等の段取りですね、二重、三重で、協議を重ねながらその準備を進めております。一番軽い部分は、市民の方のご協力による形で、市民ボランティアの方も誘導ですとか、あるいは手話ですとか、通訳ですとか、そういった柔らかい部分でのご協力も得ながら、大きな形で市全体で盛り上げていこうということで今進めております。

○ 朝日新聞 そういう研修みたいなのはもう既に終わっている。

○ 事務局 はい、何度か進めておりまして、今後も幾つか予定しております。

○ 市 長 ほかにはありますか。

○ 読売新聞 よろしいでしょうか。

では、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いいたします。

幹事社質問：来年4月から8%に引き上げられる消費税について、予算編成等の準備状況は

来年4月から8%に引き上げられる消費税について、2点お伺いします。光熱費や燃料、資材費など、必要経費でも市の支出増が見込まれますが、

来年度予算編成への影響は何かありますでしょうか。また、支出の増額は、増額分でどのくらいを見積もっているか、5%、8%それぞれで試算した場合の差額などの試算があれば、お願いいたします。

水道料金、施設使用料の徴収などで、増税による各種プログラムやシステムの変更、条例改正などが必要になるかと思いますが、現状で考えられる影響や作業、経費、準備の状況をお伺いします。

○ 市 長 それでは、幹事社のご質問に順次お答えをしたいと思います。

まず初めに、光熱費、燃料、資材費など必要経費などでも市の支出増が見込まれますが、来年度予算編成への影響はということで、また支出の増額についてどのくらい見積もっているかというご質問についてお答えをしたいと思います。

まず、平成25年10月1日の閣議決定におきまして、消費税率については平成26年4月1日に5%から8%へ引き上げることが確認をされました。引き上げ分については、既に予算編成方針等において予算要求段階で適切に反映をするように指示をいたしております。

1つ目のご質問の平成26年度当初予算における光熱費、燃料、資材費など必要経費などの影響につきましては、現在予算編成中のごさいます、今後分析をするということになります。

なお、平成25年度の当初予算のうち、一般会計4,475億2,000万円をもとに試算をさせていただくと、理論値では消費税5%相当額は約52億円のごさいます。そして、消費税8%に引き上げた場合約84億円となりますので、その差額は約32億円ということになります。

いずれにいたしましても、平成26年度予算編成におきましては、消費税増税分も含めてしあわせ倍増プラン2013や成長戦略、また総合振興計画次期実施計画などを推進できるように適切に対応していきたいと考えております。

続きまして2つ目の質問のごさいますけれども、水道料金、施設使用料の徴収などで増税による各種プログラムやシステムの変更、条例改正などが必要になるかと思いますが、現状で考える影響や作業、経費、準備の状況ということでございます、過日総務省から、消費税引き上げに伴う公共料金等の取り扱いに関する通知というものが出されたところであります。

本市におきましては、この通知等を踏まえまして税負担の円滑かつ適正な転嫁を基本として、消費税率の引き上げに伴い公共料金等の改定を行うこととしておりまして、現在条例等の改正や各種プログラムのシステムの変更に向けて、今準備をしている最中でございます。

以上でございます。

幹事社質問に関する質問

- 読売新聞 幹事社から追加でお願いします。
2点目のですね、システムの変更ですとか条例改正などで作業的な負担というか、あと時間的な制約もある中で、結構作業が大変になるかと思うんですけども、その辺は結構大きな負担になるものなのでしょうか。
- 市長 これは、では担当のほうから。
- 事務局 財政課です。私のほうからちょっとお答えさせていただきますけれども、使用料手数料とかの条例の改正につきましては、各所管課のほうで、今準備を進めているところなんですけれども、システムの変更とかが必要になるものもでございます。
中には、当初もともと、そういった手直しとかで予算上組み込んでいるものもございまして、改定に向けて新たに予算措置が必要になるものもございまして。
場合によっては、既定予算の中で対応するものもございまして、補正等が必要になる場合もあると調査の中では出ておりますので、いずれにいたしましても4月1日の税の引き上げ前まで、システムのほうの対応はできるように準備をしているところでございます。
- 読売新聞 目安として、どのぐらいの量のプログラムを改善しなきゃいけないとか、そういった何かものはありますか。
- 事務局 今調査している段階なんですけれども、調査の中では十数本のプログラムの改正が必要だということが出ておりました。
- 読売新聞 ありがとうございます。
そのほか、幹事社質問に対しての質問がある社がありましたらお願いいたします。
- 毎日新聞 毎日新聞です。

先ほどの公共料金の引き上げなんですけど、これは12月議会には条例案として出せそうだという、タイミング的にはそれまでには出せそうかどうかということよろしいでしょうか。

- 市長 出せるものと、多分出せないのが出てくると思いますけど。
- 事務局 あわせて今調整をしているところでございます。
- 市長 基本的には、なるべく早く料金改定とかに伴うものは市民周知も必要なもので、早目に出したいとは思っていますけど、その作業の問題等々ございますので、ちょっと12月に全部出せるのかどうかは、今のところまだ精査中でございます。
- 読売新聞 よろしいでしょうか。
それでは、その他質問がある方はお願いいたします。

その他：副市長人事について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
副市長の人事についてなんですけれども、市長は1期目の就任以来、副市長3人体制をですね、議会でも目指すということ答弁されていて、今回非公式ですけども、議会のほうにはその意向を伝えてあるというふうにお伺いしましたが、改めてその3人体制の狙いというか、意義を確認、お聞かせください。
- 市長 今3人にしたいと思っておりますけども、さいたま市はもともと合併した当初は3人の体制の時期もございまして、その後2人という体制でやってきたわけなんですけれども、さいたま市が政令市になってちょうど10年に当たる年になりまして、私たちはこれからさいたま市が選ばれる都市に、それから幸せを実感できる都市にしようという取り組みをしています。
その中で、私自身も含めてでありますけども、これまでどちらかという内向きの、まとめていく部分が多かったと思うんですけども、これからさらにさいたま市のよさを発信していくということについてもやっぱり積極的にやる必要があると、またそのための施策なりを充実を図っていくことも必要であろうと思っております、そういう意味ではやはり2人体制だけでは必ずしも十分ではないと、3人体制にすることで、125万都市に成長してきたさいたま市がさらに選ばれる都市になっていくために、も

ちろん市内をしっかりとまとめつつ、さらに対外的にもいろんな活動、あるいは発信をしていくということの必要性を大変強く感じているということがあって、2人から3人にしたいと、こんなふうに思っています。

○ 産経新聞 済みません、それに絡んで、新しいその役割を担うのは、3人のうちどなたと想定されていますか。

○ 市長 もちろんそれぞれ役割を果たして、3人いますので、内部的にしっかり管理をしていただく分野もあるでしょうし、役割を果たしていただく方もあるでしょうし、あるいは中にとどまることなく、フットワークよく市外あるいは全国的に動きつつ、働いていただく方というのも役割としては出てくるだろうと思うんですね。

それぞれ適材適所ということでやっていきたいなと思っておりますけれども、3人の役割分担をそういう意味では少し明確にしながらやっていこうと思っております。

また、私自身も、これまでも議会で、1期目はどちらかという現場訪問とか、市内を回ったり、あるいは市内の声を聞いたり、あるいは市を一つにするという部分で4年間やってきた、あるいはそれが中心だったと私自身も思っていますけども、今後はもっと発信をしてほしい、あるいはもっと積極的にトップセールスを果たしてほしい、こういう声もございまして、私としてはそういう役割も自分自身も積極的に果たさなくてはいけないなと思っておりますので、副市長3人と私と役割分担をしながら、この125万人のさいたま市、選ばれる都市になるためにしっかりやれる体制をつくっていききたい、その思いで3人ということをご提案させていただきたく思います。

○ 産経新聞 要するに増員した理由は、対外的に売り出したいということが一番の主眼であるということでしょうか。

○ 市長 売り出したいという表現だと、必ずしも適切ではありませんけども、例えば国の総合特区のプロジェクトをやらせていただいたり、比較的これまで、もちろん国との関係は強くありましたけれども、もう少し国との調整だとかが必要な施策、あるいはプロジェクトがかなり出てきていますので、そういったことなども踏まえて配置をしていくことが必要だなと思っております、それをあわせて大きく言うと発信という言い方をしております

けども、いろいろなそういったネットワークも必要でしょうし、またそれをやるためには財源、予算を獲得するというようなことも必要でしょうし、いろいろな役割が必要になるということで3人の体制にしたいと思っています。

- 産経新聞 2人から3人になると、1人分の人件費がふえることにもなりますけど、議会とのやりとりで困難はなかったですか。
- 市長 それは、今後提案をさせていただきますので、その中でいろんなご意見を頂戴することになるのかもしれませんが。
- 産経新聞 もうほぼ決まっているんじゃないですか、ほぼ決まったことではないんですか。
- 市長 それは、正式な提案はこれからということになりますので。
- 埼玉新聞 関連して、市長は1期目就任直後にその3人体制をおっしゃられたときに、並行して民間出身者、優秀な民間人を採用して副市長に上げることも検討していきたいとおっしゃっていましたが、今回聞くところによると民間の方ではないと思いますが、その当初の民間の副市長、民間人副市長ということについては、今どんなお考えなんでしょうか。
- 市長 そうですね、私自身の位置づけとしては、皆さん違う感覚持っていたらっしゃると思いますが、木下副市長は、そういう意味では、県の職員のOBではありますけれども、政治家、要するに首長という役割も果たしていて、私としては民間というイメージを持っています。
ですから、現時点での3人はやっぱり木下副市長というのは民間的な感覚を持っていただくということを期待しておりますので、そういう意味では、純粹の民間とは言えませんが、ちょうどそういった部分も持ち合わせた方だということを期待しているということですね。
- 毎日新聞 毎日新聞です。

その他：市職員処分の発表の時期について

済みません、先週の11日に市職員3人処分が発表されたんですが、そのうちですね、1人、水道に絡む処分の方は7月に正式に県との支払いが完了して今回発表ということだったんですが、その人の発表に合わせてですね、ほかの年度初めから、もう処分内容が固まっていた職員の処分も

10月に合わせてずれ込んだというふうに聞いています。本来でありましたら、そういった不祥事が発覚した段階で速やかに処分をして公表すべきだったと思いますが、それについての市長のお考えと今後の改善策をお聞かせください。

- 市長 案件によってすぐに処分をしたほうが良いもの、それからある程度その動向をきっちり見きわめた上で処分をしたほうが良いものがあるかと思っています。ですから、その中で今回はこういう形にならせていただいて、発生時からすると、少し時間がたっているという印象を与えたという部分はあるかと思っています。

ただ、基本的にはやはりその成り行きがどうなるかという部分も、私たちしっかり把握をして処分を下さないといけないという立場もありますので、処分というのはやっぱり非常に重いことだと思っているので、それらも含めて適切な時期に対応するように、今改めてしっかりと対応していきたいと思っています。

- 毎日新聞 人事課のほうでは、水道の案件に合わせているうちに処分が遅れてしまったというふうに、こちらには説明受けているんですが。
- 市長 一部もう少し早くやるべきだったという点はあるかもしれませんが。その辺については今後適切なタイミングというのが今言ったようにあると思いますので、それを逸せずしっかりとやっていきたいと思っています。
- 読売新聞 ほかはよろしいでしょうか。

その他：特定秘密保護法案についての市長の考えは

- 埼玉新聞 前々回もお伺いしたんですけども、特定秘密保護法案について、きょう与野党が基本合意ということで、今国会提案でかなり実現味が増してきたんですけども、国民の知る権利などについて侵害するんじゃないかと懸念も出ていますが、市長のお考えを改めて伺います。
- 市長 そうですね、この特定秘密保護法案についてですけども、我が国の安全保障に関して特に秘匿を要する、いわゆる特定秘密を保護することによって、国及び国民の安全を確保することを目的とした法律であるという認識をしております、私は外交や防衛に関する国家秘密の管理が厳格に行われる制度を整えるということは、備えるということは我が国の安全保障

